

地域密着型サービス評価の自己評価票(B棟 すもも)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝引継ぎの時、実行できるよう唱和している。	○ 共有と日々の取り組みを、理解し、実行していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	基本理念を職員・利用者様の家族に対し、直接目に入るような位置に掲げ、理解してもらうように心がけている。	○ 浸透できる様、さらに努力していく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	イベント等の時地域の回覧などでお知らせすることになっている。	○ 気軽に立ち寄ってもらいたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事・地域活動に対し、通知しお互いの親睦を深めていく。	○ 老人会や、地域の行事の時等、参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方へ声かけし、車椅子の取扱い、作動を説明し体験をする。	○	認知症の利用者の方を預かっているので、認知症の方とのふれあいや、車イスなどを使っての介護方法など。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に周知し、虐待行為が無い、入浴時などの全身を見られる時に、注意をはらっている。	○	虐待に関しては、毎日の介助時利用者をチェックし注意をはらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明と納得に対しては、家族と利用者と一緒に説明を行い、お互い納得し、同意して頂く。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から訴えが合ったときは、スタッフ及び利用者とは話し合い、より良い方へと導く。	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	なごみ便りを年数回家族に送り、日々の暮らしなどお知らせしている。金銭は毎月定期的に家族に通知している。	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会などで訪問してくれた時など、声かけし、家族の思い、感想などを、引き出している。又、苦情受付箱を設置し、記入してもらい、後日開封し、ミーティング等につけて処理していく。	○	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等を定期的に行い、実行していく。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	特変が起きた時等何時でも職員が対応できるように日々職員の配置を重視している。	○	スタッフの予備として、1名スタンバイできれば良いよう努力していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職に関しての影響力のダメージが無いように、努力すると共に、職員が変わる場合には、事前に紹介し納得いただく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の通知をチェックし、新任及び現役の人等の指導を受けるよう促し実行に移す。</p>	○	定期的にミーティングを開き利用者の状態など話し合い、どのような介護をしていくかを勧めていく。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の施設等へ見学に行き、そこで知りえた知識を生かせるように努めている。</p>	○	他施設の方などの話を聞いたり、相談したり、互いに向上できれば良い。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の状況を把握し、できるだけ問題を解決していきたい。</p>	○	時々話し合いをし、ストレス軽減に努めています。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>仕事の量や仕事の質を見極め、資格者同士でも、少しずつ差をつけるようにしている。</p>	○	個人の仕事の出来具合で、個々に評価し少しでも報酬に反映したいと思う。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期当初から本人の状況を話し合い、その人に合った生活を援助していく様に努めたい。</p>	○	本人の希望に添うような形にもって行きたい
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の悩みは何か、何を求めているか、話し合いの機会から、一つ一つ解決していくように努力したい。</p>	○	家族とのコミュニケーションを取りながら、求めている事を聴きだし受け止めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と利用者の求めている事の重要性を話し合い、必要に応じて可能な限り努力していきたい。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自由に見学してもらい、話し合い、又体験入居も1.2日していただけるようにして、施設に対するの安心感を持って頂く。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は先輩でもあり、先生でもある事から、いろいろ教えて頂く事もあり知識を共有していきたい。	○	出来る事をたとえ時間がかかっても、利用者の意思を尊重して、自由に生活していただく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	気づいた事、始めたい事等、家族と相談し、一緒に考え、より良い関係が築かれるよう努力する。	○	イベントなど家族に通知し、一緒に参加してもらい、見たり聞いたり、同じ空気の中で過ごす時間を作っている
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している			
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者と話しながら、本人の思い出を聞き出したり、馴染みの場所等へ一緒に出かけたりしている。	○	訪問者も何時でも来てもらえる。利用者も電話をしたりドライブへ行ったりしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の時やおやつの時一つのテーブルを囲み、話題を提供する。	○	話しかけをする時や何人かの人がいる時、一人一人と話しをするのではなく、全員が参加出来る様な話題で話しかけをする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在のところ継続的な関わりの必要性はないが、何時でも対処できる様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人と話し、その話の時々で思いが変わることもある為、その都度話合う機会を十分に設け本人が暮らしやすい様にしている。	○	本人に合った希望を検討する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活を重視しながら、振り返りながら、サービス向上に努めていく。	○	生活に不安は無いのか、今の生活に慣れたか、その都度サービスの点検をしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々に対しての日々の状況等を見極め、生活状態の様子を見ていく。	○	どのような思いをしているか日々の言動などから把握する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護者全員で意見を共有し、課題を見つけて、全員一致となった時、介護計画を作成している。	○	介護者全員で話し合い一番良いと思われる計画を、作成する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々状態に変化する事があると気付いた時、家族及び本人と話し合い介護計画の見直しの相談をしている。	○	現状に即した計画を作成する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌を付け、何か変わった事があれば前日や、その前後の状態を把握することが出来るようにしている。	○	情報を収集し介護計画の見直しに活かす。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の状況に応じ決定している。シフト以外に人員を入れ支援することもある。	○	余裕の有るシフトにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署指定の非難訓練やボランティアの方々の三味線・オカリナ演奏など、安全性や娯楽に力をいれている。	○	人との交流を通じて楽しく生活できるように努力する。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得が得られる、かかりつけ医と適切な医療を受けられるよう支援している。	○	家族と相談しながら、本人が一番適していると思われる医療を支援する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医療技術を生かし、担当医とも良く相談をして治療に役立てるように支援をしている。	○	職員全員が症状を把握し、知識を得るようにしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時など、時々病院と情報交換しています。	○	利用者が安心して治療を受けられる様、相談に努める。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、本人や家族と相談し希望に応じる様努力している。	○	早い段階から、医師との連携をとり、話し合いを進めていく様に対応している。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療が必要な時は、病院の担当医と相談しつつ、家族と綿密に意見を取り交わす様にする。	○	「看取り迄」行うようにはしているが、本人家族の希望を重視している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が別の場所へ移ったとしても、綿密な情報交換を行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人と向き合い、プライバシーに関して傷つけない様、言葉かけに注意し、個人情報に関しても外には持ち出さない様に徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望・思い等に関して本人と対等に話し理解をしてもらってから、支援を行う様努力している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の利用者に迷惑がかからない限り、自由に過ごして頂く。	○ 安全かどうか見極め、危険が無ければ、自由に過ごして頂いている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ボランティアの美容師に月に一回来て頂いてはいるが、本人の希望で係りつけの理容に行きたいときは相談に乗り職員同伴で支援する。又化粧品等も一緒に買いに行く様にしてはいる。	○ 望む店舗がある場合は同行に努めている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間の楽しみを実感し、嫌いな物については料理を工夫し食してもらい、片付け等は出来る人は手伝ってもらうようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	完全な自由とは行かないが、お酒・飲み物・おやつ・煙草など楽しんでいただく。	○ 職員と同行し買い物に出かけ、外で職員と食事をしたりして、楽しみの機会を作っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	認知があっても、尿・便意などあることが多く、徘徊始めの時はトイレ誘導するとトイレにて排泄することが良くあるため、声かけし誘導する。	○	排泄パターンは、一人一人その日によって違いがあるが、その習慣を少しでも把握するようにする。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まってはいるが、本人の状態によって変更する事がある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各部屋で自由に休息したり、睡眠時もその人の体調に対して、寒い日は足元の方を暖かくしてあげたりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出希望のある人、又は体調の良い人はスーパーなど買物へ、気晴らしの為で出かけるようにしている。	○	外出の回数を多くして、個人の思い出等の記憶を伺いながら楽しんで貰いたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は、収支管理を職員が手伝う努力している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや買物、又は外気浴・散歩など天気良ければ外へ出る様にしている。	○	天気の良い日等は外でボール投げ、散歩、外出等している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣・お祭り・イベント等の催し物は出掛けるようにしている。	○	一人一人思いの場所へ出かけられる様にしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出があれば、家族、友人に電話を掛けて頂く。	○	電話は自由にかけてられる様にしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人他の方々が、気軽に来ていただけるように声掛けし、訪問して頂いた時はお茶などを入れている。	○	時間等気にせずに来てもらえる様工夫したい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しては全職員に注意を促し、万全の対策を行う様にしている。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は、外気浴や散歩などで外へ出る時を除いて鍵をかけている。利用者によっては、一人で外へ出てしまうと戻れなくなる為開閉は自由にしてない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りを重視している。	○	全体的に利用者の状況を把握し、個々の介護にあたりたい。把握し注意していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知度によって、誤飲等の危険がある場合は見えない場所に保管しておく。	○	本人が洗濯等できる時には、介護者と共に行う。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、薬の誤服用他を防ぐ注意点は、緊急対応研修にて、火災を防ぐ為の知識は消防署員を招き指導してもらっている。	○	利用者の状況、状態を把握をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成してある。年に一度地区消防署へ救命講習をお願いしている。	○	講習を受けた後、何度か介護者同志で復習する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応としては、消防署のアドバイスを受け、又常時非難道具を準備している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族等と話し合い、状況を把握し綿密に対策を強化していく様にする。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックをし、体調の変化等を記録に残し、全員が把握できるように努めている、	○	話しかけ異変の発見に、速やかに対応し、報告している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者専用ファイルに「薬状」を綴り常時閲覧できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、毎日のチェックと水分補給、繊維質の補給、便秘薬の量の調節をしている。		トイレの水を止めチェックできる様にしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎日声かけて、自分で出来る人、出来ない人、個人に応じて支援している。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水症状にならないよう水分補給をこまめにし、たとえば胃切除した方は胃の容量を考え1日3回の食事の他、10時・15時頃パン等を食べて頂く。	○	体の状況に寄って3食の他に食して頂くのですが、一人だけ食べて頂くのは難しく今後の課題です。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症時の対応セットを作っている。冬季の室内乾燥に気を配り、湿らせたバスタオル等を室内で干している。食堂には加湿器を稼働させ対処している。	○	感染予防にマスクを付けると利用者とのコミュニケーションが取りづらく、なる為なるべく消毒を重視している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	予防としては食材の管理、及び使用した調理器具等は毎日消毒している。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外門及び裏門は何時でも開放している。但し防犯の為(8:30~9:00分迄)門を閉鎖	○	季節の変わり目には花等絶えないようにしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間等は季節に応じて、四季折々の物を飾りつけ季節感を取り入れる様にしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居室においてくつろがれ、気の合った利用者同士でリビング及び食堂で話、過ごせる様にしている。		個々の個室にもTVは有るが、リビングにて好きなTVを皆で共有する事も多い。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、使い慣れ親しんだ物を持ってきていただいている。	○	自宅で使い慣れた品物、及び身の回り品を持参してもらい、利用者と介護者で整理していくようにする。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は常に窓の開閉を試み、温度調節を行い、共有スペースには、加湿器を設置したりしている。	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有の場所はスペースを大きくとり、車椅子等がぶつからない様、椅子の配置を考え、又歩く時物に当たらない様に工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室のドアには氏名・写真を大きく貼り、トイレ及び風呂にはのれん等をかけ色別し見分けられるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑を作り世話や収穫を楽しんでいる。	○	もっと多くの花・野菜を植え、利用者と一緒に楽しみ、広げたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

他の利用者へ迷惑かからない限り自由な生活が出来るように支援する。